

## 技術評論

宮地建設工業株式会社 取締役 南出範雄

入社以来30年余りたった今、当時を振り返ってみますと、東京オリンピックムードで景気がようやく上向き始めた頃であり、首都高速道路建設のはしりであった江戸橋立体高架橋の架設現場に従事していました。その当時休日も定まっておらず、また昼夜となく働いた時代であり、現在と格段の違いがあって懐かしく思われると同時に、当時は安全に対する設備・認識とも現在と比較すると雲泥の差があったと記憶しています。自分の現場経験20数年の前半は直接・間接的に重大事故に関連した苦い思い出があり、今でも思い出すことがあります。しかし、その時々多くの先輩に架設技術はもちろん安全技术に対し、愛情のある指導をして頂き、本日までの自分があるものと深く感謝しております。

現在、本州四国連絡橋公団最後の吊橋である、世界でも珍しい三連吊橋のケーブル工事を担当させて頂いています。思いは遠く17年前、本四連絡橋で初めての吊橋であった因島大橋ケーブル工事を経験でき、一生忘れられない現場となっています。その後、エアスピニング工法を採用した下津井瀬戸大橋ケーブル工事、また本四連絡橋として最初の直下吊り上げ工法を採用した大島大橋と続き、現在に至っております。私にとってこの4橋は多くのご指導を頂いた本州四国連絡橋公団、新日本製鐵、神戸製鋼所の多くの皆様、また一緒に苦楽を共にした同業他社の人達、職人さん達と出会えたことが、今ある自分の大きな財産となっております。この間、全社を挙げて長大橋、一般橋を含めた今までの貴重な経験を生かし、更に創意工夫を重ねた架設工法を採用、安全第一に施工できる安全設備等を最重点に取組み、重大事故につながる墜落事故防止に努めてきています。

日本橋梁建設協会の調査によると、過去20年間の鋼橋架設工事における労働災害の内約17%が死亡災害であり、その事故のかたちをみると墜落事故が約75%を占めています。平成7年1月に発生した阪神大震災では、阪神高速道路、鉄道等が大被害を受け、特に阪神高速道路は全面開通に向けて昼夜間突貫工事となったことと、一時的な人手不足による橋梁架設従事者の経験不足等が重なり、墜落事故が多発、上記の数字が更に増しているものと思われます。

我々架設専門業者の自覚として、常に安全・品質・工期・コストに責任を持ち発注者の信頼を最大限得る努力を怠ってはいけません。特に安全については、重大事故の要因となっている墜落災害の撲滅に向けた安全意識

を、技術員・作業員とも、同じ目線の高さに持つことが現場に於いて重要です。施工計画の中でも安全関係、特に足場設備に重点をおいており、日本橋梁建設協会、日本架設協会から発刊されている多くの安全に関する図書を貴重な実績として活用しています。マニュアル通り施工計画に記されていても、それが実作業にあたってはブロック化してきた足場類や現場で架設する足場に、計画どおり施工できない部分が多く発生するのが現状です。現場では設備不良箇所を見落としなく施工するためにも、技術員・作業員が都度綿密に打ち合わせを行いその箇所を処置することが必要です。しかし、墜落災害は設備不備によって発生するものは少なく、作業員の不安全行動による事が多いのが実態ではないでしょうか。いまだに作業員の経験と感に頼る作業姿勢が多々見受けられます。その基本解決策として、作業員との日常会話の充実、またその現場にあった作業手順打ち合わせを作業項目毎に行い一体となった指導教育を行う必要があります。まだまだ「安全」という大きな枠の中での技術開発の余地が残っていると思われまます。

事故なくさずして社の発展、存続は望めません。今後も更に確かな技能を持った作業員確保も重大な我々の使命でしょう。安全という大きな二文字の大きな技術に挑戦するためにも。

橋梁業界にとって本州と四国を橋で結ぶことが長年の夢でありました。本州四国連絡橋着工より20数年が経ち、平成11年の西瀬戸大橋自動車道全面開通に向けて工事が進み、関係者の夢が現実になりつつあります。この大きな夢が更に続き、ポスト本四を目指す東京湾口、伊勢湾口、紀淡海峡と超長大橋計画が進んでいることが新聞等で報じられています。着工までには幾年も要するかと思われまますが、一日も早い着工が望まれます。その間、本四架橋等で永年蓄積されてきた架橋技術に更に研究を重ね、技術員と共に優秀な施工技術を持った作業員が高齢化しつつあるなか、若い人達にその夢を実現させるためにも指導育成を怠りなく進め、バトンタッチがスムーズに行くよう最大の努力を惜しまないことが肝要です。「人命は地球より重し」の通り安全第一を最優先とし、架橋地点において発注者はもとより、地元の人達にも喜ばれる仕事をしたいものです。

今後、益々発展する宮地グループとして。

『共に歩もう明日をめざして』